

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園



援農サークル「en」と収穫した大根

特集：学生の活躍

vol.104

特集 学生の活躍

目次

特集：学生の活躍

2

青森中央学院大学

4

- ・学生による消費生活フェスタ開催
- ・「しもきたジオパークゼミ」に参加して
- ・全日本大学ボウリング選手権大会3位入賞
- ・音楽系サークル合同イベント「虎ノ門」を終えて
- ・青森県流通団地連絡協議会 学内企業セミナー開催
- ・あおりツアーリズム創発塾2020 公開セミナー開催
- ・国際交流センターより
- ・「飛翔式」を通して考えた学修の志と看護について
- ・飛翔式関連行事講演会開催
- ・特定行為研修が始まりました
- ・4年間の学修の集大成
- ・「看護研究発表会」を開催しました
- ・青森中央高校との高大連携事業に参加して

青森中央短期大学

8

- ・樹の実プロジェクト「シュトレン教室」
- ・ホタテ博士になろう～ホタテ丸ごと探検～
- ・食育活動を行っています
- ・食育ソング「だいのうた」CD配付中です
- ・幼児保育学科50期生ミュージカル「ピノキオ」
- ・響感アート交流地点「折り紙講座」
- ・公開講座「認知症の理解」

附属第一・第二・第三幼稚園 中央文化保育園 浦町保育園

10

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校

12

- ・Bunka Fashion Live 2020
- ・公開講座を開催しました
- ・POP UP SHOP「+ vif」
- ・卒業生講話を聴講しました
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

学園共通

14

- ・高大連携事業
- ・図書館から
- ・「センス・オブ・ワンダー」開設
- ・オープンリソースの利用について
- ・エコバック活用の取組みについて
- ・新型コロナウイルス感染症への本学の対応

援農サークル「en」による大根栽培

青森中央学院大学 経営法学部2年 木村 剛

援農サークル「en」では「毛豆プロジェクト」と称して、毛豆の栽培や収穫祭を行っています。今年度も実施する予定でしたが、新型コロナウイルスによる課外活動の自粛と毛豆の植え付け時期が重なり、毛豆栽培は断念せざるを得ませんでした。これに代わる事業として、今年度は遊休農地での大根栽培を行いました。背丈ほどもある雑草を刈り払い、土を耕すところからのスタートでしたが、想像以上の大根を収穫することができました。

収穫した大根は主に「あおりマルシェ」や「サテライトキャンパス」での農業に関する消費者意識調査を実施する際に配布しました。調査そのものは無事に終わることができましたが、調査場所の手配、人員の確保、運営における見通しの甘さなど多くの課題が見つかりました。今年度の経験を来年度のプロジェクトに生かしたいと思います。



青森市学生消防団として活動しています

青森中央学院大学 経営法学部4年 前田 光希



私は大学入学と同時に青森消防団へ入団しました。消防団は「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき活動していますが、団員数減少、高齢化という問題を抱えています。

そのため私も含めた20代の若手消防団員でさまざまなプロジェクトを進行中であり、学生消防団の新設もその一環です。近年では女性学生消防団員が増加したことにより、地域の防災活動や広報活動の場において若手女性消防団の活躍が顕著に見られます。

大学生として生活している中でも、消防団の伝統である纏振りや梯子乗りを継承しつつ、防災活動時や災害発生時には「非常勤特別職地方公務員消防団」として、郷土青森を災害から守るために活動しています。



学生団体「For Aomori」での活動について

青森中央学院大学 経営法学部2年 福士 葵葉

今年度、コロナ禍において売上が減少した飲食店を支援するため、学生団体「For Aomori」を設立し、青森市内の飲食店のテイクアウト商品を掲載したパンフレットの制作・配布を行いました。

パンフレットは、インターネット環境がないなどの理由でテイクアウト商品の情報を入手するのが困難な人へ向け、商品について知ってもらい、気軽にテイクアウトを利用していただきたいという思いで企画・制作しました。



制作の際には、むつ小川原地域・産業振興財団様から助成をいただき、また「ふんばるアオモリ」事業を運営する青森商工会議所様の協力を得て、実現することができました。受け取ってくれた市民の方からは、「こんなパンフレットが欲しかった」「このような活動は非常にありがたい」などの声をいただき、とても励みになりました。

今後もコロナウイルスによる影響が続きそうですが、そのような中で多くの人にテイクアウト商品を利用していただき、おうち時間の楽しみの一つとして活用してもらえたらと思います。



「介護技術コンテスト2020」に参加してうれしかったこと

青森中央短期大学 専攻科福祉専攻 虹川 諒



2020年9月27日、青森県社会福祉協議会の主催による「介護技術コンテスト2020」が、青森市のホテル青森で開催されました。

県内の福祉施設や専門学校の10チームがエントリーし、私は本学専攻科福祉専攻Bチームの介助者役で参加しました。事例は「認知症高齢者の男性がお茶をこぼしたため、激怒し、その後の着脱介助までの場面15分を想定したもの」でした。

私たち専攻科は、実習と実習の間の限られた期間で事例を読み取り、チーム3人で支援の方法を

考え、練習しました。練習ではなかなか3人の考えがまとまらず、教員のこと細かい指導もあり、コンテスト本番直前まで支援方法を悩みました。本番では熱心に練習に取り組んだおかげで、最優秀賞を受賞させていただき、満足した結果を残すことができました。改めて専攻科福祉専攻に入学し、よかったと思いました。

ご指導ご声援くださいました先生方に、この場を借りてお礼申し上げます。



青森中央学院大学

学生による消費生活フェスタ開催



経営法学部3年 長尾 朱夏

私は、消費生活フェスタの実行委員になってから、初めて消費生活センターの活動内容を知りました。センターのことを少しでも多くの人に知ってもらうため、また被害にあった人たちの手助けがしたいと思い、活動してきました。会場設営や講演内容等、すべて学生実行委員が中心となり、意見を出し合って決めました。今回のフェスタの講演はSDGsに関連し、エシカル消費について講演していただきました。

SDGsの目標「つくる責任つかう責任」達成に効果的なエシカル消費は、身近なところから始めやすいと言われています。マークがついた商品を購入したり買い物する際はエコバッグを活用したり等、小さなことでも続けていくのが大切だと思います。自分の周りの人にもエシカル消費を広め、持続可能な社会を目指していきたいです。

全日本大学ボウリング選手権大会3位入賞

2020年11月28日から30日まで、川崎グランドボウルにて行われた「文部科学大臣杯第58回全日本大学ボウリング選手権大会」に本学ボウリング部が出場し、男子チーム、女子チームともに第3位となりました。

この大会は、学生連合所属の選手にとって1年で最大の目標となっているものです。近年、本学ボウリング部は本大会入賞の常連校となっており、今回もまた見事3位入賞を果たしました。

試合では序盤から苦しい展開が続く中、最終的に3位入賞に滑り込むことができました。来年度は、男女ともに王座奪還を目指していきたいとのこと。選手たちは次回大会に向けて頑張りたいと意気込んでいますので、引き続き応援よろしくをお願いします。



「しもきたジオパークゼミ」に参加して



経営法学部3年 野呂 琢登

私が「しもきたジオパークゼミ」に参加した理由は、自然を観光資源に使うためにはどうしたら良いか、また、他大学との交流を通して様々な考え方や知識を深めたかったからです。ゼミではグループに分かれてジオパークを実際に視察し、問題点や改善点を探りました。

自然を観光資源とするためには、その場所ではできないという必要性和、運用コストを考慮しなければならず苦勞しました。最終日には各グループでコストを踏まえたプランを発表し、発想の違いと議論の深まりを感じました。このグループワークは私自身の可能性を引き出してくれました。また、何より青森県の活性化を考えることで、私たち学生でも地域貢献ができるかもしれないという希望を与えてくれるとても有意義なゼミでした。

音楽系サークル合同イベント「虎ノ門」を終えて

経営法学部2年 佐々木 里奈

17回目となる「虎ノ門」は例年と形式が変わり、無観客ライブで開催されました。無観客は初めての試みだったため、情報共有や進行の面で苦勞することが多くありました。しかし、他サークルとのミーティングをより多く設け、時間に余裕をもってタイムスケジュールを組むなどの対策をとることで不安要素が減り、当日は滞りなく進行できました。今回の成功は他サークルの皆さんの協力やサークル内での支えがあったことです。皆さんありがとうございました。私自身学ぶことが多く、成長できたと感じました。

次回の虎ノ門では、今回の反省点を活かし、伝統的なイベントである「虎ノ門」をより良いものになりたいです。



青森県流通団地連絡協議会学内企業セミナー開催

現4年生には、これまで経験したことのない「コロナ禍」の中での就職活動でしたが、11月末では例年通りの内定取得率となりました。しかし、10月以降からは求人数の減少等が顕著となり、未内定者にとっては厳しい就活となっています。

このような状況下、現3年生には少しでも多くの企業情報を収集することで、早い時期から就活本番に備えてもらうことも含めて、本セミナーを開催しました。「コロナ禍」の長期化によっては、今後ますます業績が悪化する企業が出てくると予想されます。新卒採用者の抑制等、これまで以上に厳しい就職環境が待ち構えている事を認識してもらいたいです。(キャリア支援担当)



あおもりツーリズム創発塾2020公開セミナー開催

あおもりツーリズム創発塾（青森県委託事業）による、ポスト/ウィズコロナ社会に対応したアートツーリズムを支える人材を養成するための公開セミナー（青森中央学院大学地域マネジメント研究所主催）を2020年11月と12月、2021年2月の3回開催しました。第1回は「ポスト/ウィズコロナ時代のアートツーリズム」、第2回は「アートツーリズムの地域展開」、第3回は「冬のアートツーリズム」と題して基調講演を行いました。また、県内各地に新たなアート活動の拠点が整備されているこの機を捉え、アートの現場で活躍するゲストを招いてディスカッションし、コロナ禍での青森らしいアートツーリズムについての理解を深めました。



国際交流センターより

消費生活相談ベトナム語版リーフレット作成に協力

青森県消費生活センターによる「大学生の消費者教育活動実践支援事業」の一環として、消費生活相談多言語リーフレット（ベトナム語版）の作成に、青森中央学院大学のベトナム人留学生2名が協力しました。2019年度の英語版リーフレット作成に続いて2年目の取り組みです。また、2020年11月29日に行われた「令和2年度学生による消費生活フェスタ」に於いて、翻訳で苦労した点や日本とベトナムの消費者トラブル対応の違いについてステージ発表しました。近年、青森県内においても在住外国人数は増加しており、文化や習慣の違いにより外国人が消費者トラブルに巻き込まれるケースが多発しているそうです。

このような取り組みを通して、青森中央学院大学が地域の方々をはじめさまざまな機関と連携・協働しながらSDGsの目標達成につなげていければと考えています。



コロナ禍でも異文化理解の機会を

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により日本と海外の渡航が制限されて

いますが、青森中央学院大学では各連携機関と協力し十分な感染予防対策を講じた上で、ようやく新生を迎え入れることができました。さまざまな困難を乗り越えて青森中央学院大学に入学してくれた留学生を歓迎するため、日本人学生チューター主催でお正月体験企画が行われました。今年度から新入留学生を複数名の日本人学生チューターが担当し学習面・生活面でサポートするバディ制度に挑戦しています。大星神社を訪れた新入留学生はバディの日本人学生から参拝方法を教えてもらい、それぞれ願い事をしました。

実際に海外へ行くことはまだまだ難しい状況ですが、その中でも内向きにならず、コロナ禍でもできることを見つけよう！と学生自ら異文化を身近に感じる機会を生み出しています。



「飛翔式」を通して考えた学修の志と看護について

看護学部2年 佐藤 優

私たち看護学部6期生は、飛翔式に向けて、「ゆるぎない信念を貫き、夢や希望を達成させる」という意味があるターコイズカラーをベースにした、メッセージボードを作成しました。「限りなき挑戦」「やさしさ」「希望」が花言葉のガーベラを描き、一人ひとりが目標達成のための学修の志を決意しました。

関連行事の講演会では、『身体へのまなざし:ほん

とうの看護学のために』等を執筆された阿保順子先生から、看護技術と対人関係について学び、グループに分かれて意見交換をしました（下段左記事参照）。看護技術は手順だけではなく、根拠と留意点、患者の考えや状態に合わせることで、患者の家族や多職種との関りが重要であることに気がきました。

これからも様々な苦難があると思いますが、自己実現のため、仲間と助け合いながら学修に励んでいきます。



飛翔式関連行事講演会開催



2020年9月15日、飛翔式に先立ち、先達の講演を聴き、熟考して学修の志を明確にするための講演会を開催しました。講師は前長野県立看護大学

学長の阿保順子先生です。「看護技術に学ぶ対人関係」と題してご講演いただきました。聴講後、学生たちは「講演会からの学び・今後活かすこと」についてグループワークを行い、「自己の看護師像と学修の志」についてレポートにまとめました。

このグループワークでまとめた学生たちの「学修の志」は、ガーベラの花びらに記して大輪の花を咲かせた、飛翔式メッセージボード（7号館1階に掲示）で見ることができます。



特定行為研修が始まりました

青森県内初である看護師の特定行為指定研修機関（1年課程）となった本学では、2020年10月1日、1期生5名の入講式を開催しました。特定行為とは、研修終了後に看護師が手順書により医師の判断を待たずに実施できる診療の補助行為です。本学では「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の区分を受講できます。看護職のキャリアアップや看護の質を向上させることを目的としています。働きながら、eラーニングによる講義、演習、実習で特定行為を学ぶことができます。



4年間の学修の集大成「看護研究発表会」を開催しました

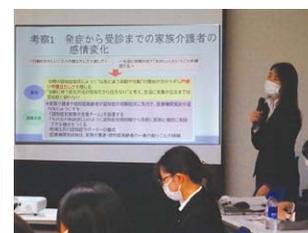
2020年は新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、医療者は生命の尊厳のもとに懸命に活動しています。学内では、臨地実習が学内実習に変更になりました。このような中ですが、2020年11月、青森中央学院大学看護学部4期生による73題の「看護研究発表会」を開催することができました。

学生は、卒業後に高齢社会の進展、生活習慣病の増加、医療の高度化・複雑化、在宅医療への移行など多様な保健医療福祉の課題があるなかで、チーム医療の一員として主体的に創造的に活躍することが求められています。人間性や倫理性の向

上、基礎・基本となる専門的知識・技術・態度、看護実践力、困難を乗り越える力、前向きに努力する力などをこの4年間での学修、特に看護研究に取り組むことで獲得できたと信じています。

これからは、常に建学の精神である「愛あれ 知恵あれ 真実（まこと）あれ」を基盤にして、努力を重ねてきた自分に自信を持ち、人々に寄り添い、健康の保持増進・健康回復と生活の質の向上のためにご活躍いただくことを心から念願しております。

(看護学部長 一戸とも子)



青森中央高校との高大連携事業に参加して

看護学部3年 安田 汐里

高大連携事業では、青森中央高校の1・2年生の皆さんと交流を深めました。大学について知ってもらうことを目的に、グループに分かれて学校での過ごし方や勉強方法などの経験をお伝えしました。

高校生の皆さんからは、特に入学試験と実習についての質問が多く聞かれました。学校の雰囲気を感じ、看護学の学習の実際を知ることは、

受験勉強のモチベーションにも繋がると思います。これから勉強も大変になってくると思いますが、自分の夢を諦めずに追いかけてほしいです。

また、私自身も真剣な高校生の姿を見て、実習や国家試験の勉強を頑張ろうという前向きな気持ちになりました。患者さんの想いに寄り添うことができる看護師を目指し、社会に貢献できるように頑張ります。



青森中央短期大学

樹の実プロジェクト「シュトレン教室」



学生プロジェクト「食べよう青森♪樹の実プロジェクト」では、キャンパス内に自生する植物や果樹等を使用し、毎年お菓子教室を開催しています。今年は工藤くみ子氏を講師にお招きし、12月にシュトレン教室を開催しました。学内で収穫した「樹の実（くるみやいちじく等）」をそれぞれ好きな割合で組み合わせ、生地練り、オリジナルシュトレンを作りました。完成したシュトレンは、家に持ち帰り、毎日1切れずつ、味の変化を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。プロジェクトメンバーの学生は、参加者の補助をしながら、一緒に初めてのシュトレン作りを楽しんでいました。今後も学内で収穫できる樹の実等を使用してイベントを開催していく予定です。

(食物栄養学科助手 千葉 綾乃)

ホタテ博士になろう～ホタテ丸ごと探検～

2021年1月9日に食物栄養学科公開講座『ホタテ博士になろう～ホタテ丸ごと探検～』を行いました。青森県は農林水産物が豊富な県ですが、中でも三方海に囲まれていることから美味しい魚介類がたくさんあります。今回は生産量全国2位のホタテについて、その育ちや加工品、生体、どんな調理法があるかをはじめに親子で学習していただきました。その後、実際にホタテをさばいてグラタンやアクアパッツァを調理しました。

ホタテについてしっかり学んでから調理することで、より美味しく味わうことができたのではないかと思います。これからも色々なホタテ料理にチャレンジしてみてくださいね。

(食物栄養学科
准教授 森山 洋美)



食育活動を行っています

食育で青森県を元気にする大学を目指している青森中央短期大学では、2020年11月、幼児保育学科2年生がキャンパス内の附属第一幼稚園で園児たちに食の大切さを教える食育活動を行いました。この活動は「こどもの食と栄養」の授業の一環で行われているもので、学生は子どもの食に関する課題への支援方法を学び、青森県の地域課題についても考えます。

まず、学生たちは、幼稚園教諭や保育士の立場になって、園児たちの年齢に合わせた食育指導案を作成します。そして、工夫を凝らした手作り教材で、朝ごはんの大切さや好き嫌いせず食べることなどの食育指導を実践しました。



食育ソング「だいちのうた」CD配付中です

青森中央短期大学開学50周年記念事業
CHU-TAN 食育ソングvol.2
CD『だいちのうた』



catchphrase
子どもたちに「美味しい幸せ」を

土の匂いや感触、鳥の声、風の音、お日様の温もり、季節の移り変わり…歌詞や効果音から、一粒の大豆が私たちの身体に届くまでのストーリーを五感で感じられるように作られた食育ソングです。聴くだけはもちろんのこと、曲に合わせて打楽器を演奏したり、オペレッタ風に表現あそびをしても楽しめます。

CDご希望の方には、送料のみ実費で配付しています。数に限りがありますのでお申し込みはお早めに。

【お問合せ】青森中央短期大学 地域連携課

TEL: 017-728-0121 E-mail: csk@chutan.ac.jp

幼児保育学科50期生ミュージカル「ピノキオ」

幼児保育学科では表現発表の集大成としてミュージカル公演を行います。第50期生のミュージカルの演目は「ピノキオ」で、8年前に本学科で上演した作品をリメイクしたものになります。42期生のシナリオを受け継ぎながらも、原作の素晴らしさと50期生らしさを盛り込めるように、場面構成や演出のアレンジを行いました。

新型コロナウイルスの終息が見えない中、キャスト・音楽班・造形班それぞれが公演を目指して努力を重ねてきました。当日はマスク／フェイス

シールド着用、観客の人数制限等の感染対策を講じて上演し、同時にYouTubeでのライブ配信も行いました。

日々の成果を発揮できたことはもちろん、インターネットを通して多くの方に鑑賞していただけたことと、事故もなく無事に公演を終えることができ、学生・教員ともに充実感で一杯です。例年とは異なるため戸惑いもありましたが、記憶に残る公演になったと思います。

(幼児保育学科助教 具志堅 裕介)



響感アート交流地点「折り紙講座」

幼児保育学科2年 仲野 暖子

開学50周年記念事業 響感アート交流地点「折り紙講座～折り紙で素敵な箱を作しましょう～」へ、参加者補助として参加しました。

参加者は地域の方が多く、幼児から高齢者まで幅広い年齢層でした。作品は「ねじり花」技法という、花が咲いたようなデザインが特徴的な六角箱です。「のり付け」が不要で、小物入れなどに使える実用的なもので、箱の高さを自由自在に決めることができ、色々と楽しめる作品でした。

苦戦した点は「ねじり花」のまとめ方です。苦戦した分、できたときは嬉しく、楽しい気持ちになりました。参加者補助として、参加の方と関わりながら共に考え、「できた」喜びや、うまくいかない経験を「わかちあう」ことができる講座だったと思います。



公開講座「認知症の理解」

2020年10月10日、青森中央短期大学公開講座「認知症の理解－身近な人の変化と対応－」が開催され、幼児保育学科専攻科福祉専攻の美濃陽介講師による公開講座が実施されました。当日は県内各地より約30名の方の参加がありました。

公開講座の内容は、認知症の定義からはじまり、次に三大認知症（「アルツハイマー型」、「脳血管性」、「レビー小体型」）の紹介、続いて認知症の各症状（「認知機能障害」、「中核症状」）の紹介、そして身近な人の変化や対応方法についてや、認知症のある方とのコミュニケーションの方法などについての紹介がありました。その後、質疑応答の時間に移り、数名の参加者の方から内容に関する質問が寄せられる等、盛況のうちに公開講座は終了しました。

(専攻科主任
准教授 伊藤 弓月)



附属第一・第二・第三幼稚園/中央文化・浦町保育園

教育方針

—健康で明るく心豊かな子ども—

- 友達と仲良く遊ぶ。
- よく見、よく聞き、よく考える。
- 思ったことははっきり話す。
- 自分のことは自分でやる。

認定こども園附属第一幼稚園



山の音楽家になりきって、楽器を作って演奏したよ♪



創立50年ウォークラリー 学内を探検し、めだか発見!!



イルミネーション点灯式 サンタのかわいい衣装を着てクリスマスメドレーを演奏したよ♪

認定こども園附属第二幼稚園



秋の保育参観では、寒天ゼリーで遊んだよ。冷たくて気持ちいいなあ。



社会体験で手話を教えてもらったよ。頬に手を当てて「おいしい～」



待ちにまった雪遊び。みんなで、雪だるまを作ったよ。

認定こども園附属第三幼稚園



幼稚園祭、仲良しトリオでイエーイ!



元気に堂々と発表できたおゆうぎ会



おもちになってきたぞー、力を合わせてぺったんこ!

中央文化保育園・浦町保育園



「不思議の国のアリス」じょうずにできました!!



たくさん雪遊びができて、楽しいよ～☺



12月22日、みんな大喜びでサンタさんからプレゼントいただきました。「何が入っているのか…!」ワクワクでした。

先生達活躍しています 第22回

「初心を忘れず、日々学んでいます」

認定こども園附属第二幼稚園



伊藤 香奈子先生

附属幼稚園に勤めて7年目になりました。昨年度までは第三幼稚園に在籍し、今年度から第二幼稚園へ転勤となりました。転勤が決まった時は、うまくやっていけるかな…と心配になりましたが、行事等で顔を合わせている先生がたくさんいらっしやっただので、安心して仕事をする事ができています。

今年度はコロナ禍で昨年と同じように行事を進めることが困難でした。年長児は最後の園生活だからこそ行事はやってあげたい！と、その度に先生方で話し合いを繰り返し、行事を遂行できるよう努めました。その結果、無事に運動会やお遊戯会・合宿保育などやり遂げることができました。職員が一丸となり取り組む職場は素敵だなと思います。

転勤を機に、約140人の子どもたちとの新しい出会いがあり、子どもの個性や考え、アイデアも様々で毎日が発見の日々です。また、先生方の声掛けや保育の仕方などもとても勉強になります。初心を忘れず、日々学び、自分の幼稚園教諭・保育士としての成長へと繋げていきたいと思っています。

「子どもたちの成長にやりがい」

幼保連携型認定こども園中央文化保育園



玉田 恵先生

幼い頃からなりたかった憧れの保育園の先生になり、この中央文化保育園で保育士として勤務し、13年目になります。保育士という仕事にやりがいを感じ、忙しい日々の中で元気いっぱい子どもたちにパワーをもらって、毎日楽しく過ごしています。

今年度は2歳児の担任になりました。毎日の生活の中で、基本的な生活習慣を身に付けていく中、できなかった事ができるようになり、「先生、できたよー！」と満面の笑みを見せてくれ、成長する姿を共感できる事が、保育士になって良かったなと思える瞬間でもあります。子どもたちの、1人ひとりのペースを理解しながら、同じ目線に立ち、泣いたり笑ったり子どもたちの気持ちを受け止めながら、私自身も一緒に成長していきたいと思っています。

「毎日が楽しい！幼稚園に」

認定こども園附属第三幼稚園



嶋津 綾香先生

なりたかった幼稚園の先生になり、20年以上が経ちました。私は青森中央短期大学附属第二幼稚園の卒園児です。年中クラスから入園した私は、一番最初の担任の先生が大好きで、その頃から「大きくなったら幼稚園の先生になりたい」と憧れていました。附属幼稚園や別の保育園での経験を経て、今は附属第三幼稚園 指導教諭として勤務しています。

附属幼稚園が認定こども園となり、私も以上児クラスの他、未満児クラスも経験する機会をいただきました。0歳児クラスから5歳児クラスまで、すべての学年を経験し、今はその経験を活かして現場で働く先生たちに少しでもアドバイスができればと、日々保育にあたっています。

私が仕事をするうえで心掛けていることは、“楽しい幼稚園”です。毎日元気に登園してくる子どもたちはもちろん、保護者の方、一緒に働く先生たちがみんな笑顔で毎日が楽しい！と感じることができる、そんな幼稚園を目指して自分自身も楽しく保育にあたっていきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

幼保連携型認定こども園浦町保育園 中嶋 稚香子先生

『くまのコールテンくん』

ドン・フリーマン作 まつおかきょうこ訳 (偕成社, 1975)

デパートのぬいぐるみ売り場で、なかなか買ってもらえないくまのコールテンくん。未だ世界を知りません。ある日、ひよんなことから外の世界を覗き見たり、可愛い冒険をすることになりました。

おもちゃのくまさんを主人公にしたお話はたくさんありますが、この本は本当に素直で可愛らしいお話です。選ばれないことが続いて傷つく気持ちもよくわかり、悲しくなります。でも、一人の女の子リサに連れて帰ってもらうために売れ残っていたのかもしれないと思いたくなるほど、素敵な出会いが待っていました。

同じようなものがたくさんある中で、一つだけ気になるものってありませんか？運命かな!?きっとオンリーワンの大切さを思い出させるはず…。子どもにも、大人にも読み聞かせたい一冊です。



青森中央経理専門学校。青森中央文化専門学校

Bunka Fashion Live 2020

青森中央文化専門学校では、2020年12月19日、アウガ5階AV多機能ホールにて、「Bunka Fashion Live 2020」を開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、会場で限定席を設けて開催すると同時に、YouTubeでオンライン配信を行いました。

今年度のテーマは「Infinity」と題し、学園祭ファッションショーで発表した3シーンを含め、全9シーン・63点のオリジナル衣装を発表しました。企画、デザイン、制作、構成、映像、音響等全てを学生がディレクションし、自らモデルとしても出演しました。

試行錯誤しながら学生たちが創り上げたファッションショーは、「青森中央文化専門学校YouTube公式チャンネル」で公開されております。是非ご覧ください。



POP UP SHOP [+vif]

2020年11月7日、8日、21日、22日の4日間、青森中央文化専門学校ファッション販売専攻の2年生が企画し、期間限定アパレルショップをオープンしました。

「+vif」というショップ名は、日々のライフスタイルに生き生きとした彩りをプラスできるようなファッションのご提案をしたいという思いが込められています。什器のレイアウトや売場のVMD、販売商品の選定、価格設定、予算設定など日々学んでいることを活かし取り組みました。

当日は、アパレル専攻2年生にも協力してもらい、無事にオープンすることができました。多くのお客様にご来店いただき、ファッション販売の難しさや、お客様とのコミュニケーションの大切さを実感できる実習となりました。ご協力くださいました皆様、ありがとうございました。



公開講座を開催しました

2020年12月19日、新町キューブ3階会議室にて、公開講座「こんな時だから考えたい！“ワークスタイル”&“マネーリテラシー”～この不確実な世界をサバイブしていくために～」を開催しました。

NPO法人青森ファイナンシャル・アカデミー代表理事の菅原伊佐雄氏を講師に招き、「仕事とお金」という結びつきが非常に強い二つをテーマに講演していただきました。参加者は、時折メモを取りながら講師のお話に耳を傾けていました。参加された皆さま、本当にありがとうございました。



卒業生講話を聴講しました

2020年11月27日、学内フリースペースにて4人の本校卒業生から、在校生に向けて講話をして頂きました。就職活動していた当時の事、在学時の勉強方法、資格取得・学校行事等を懐かしみながら当時を振り返るとともに、入社当時の大変だった経験や現在の目標としている事などをお話し頂きました。

金融・調剤事務・新幹線アテンダント・アパレルと各方面で活躍する先輩の経験談は、もうすぐ社会人となる学生にとって貴重なお話しで、学生たちは充実した学校生活にすることを改めて目標にしていました。また新型コロナウイルス感染拡大防止のため、双方向のコミュニケーションとなる座談会は、全体会の後、各コース・専攻に分かれて実施しました。



経理発信情報 vol.25 パソコン教室

2020年12月5日、学生によるパソコン教室を、今年コロナ対策をしながら実施しました。毎年開催しているこのパソコン教室は、学生が日頃学んだ知識と技術を、参加者の方に教える実践の場でもあります。

昨年までは、ワードを使った内容でしたが、今年はパワーポイントを使用した内容に初めてチャレンジをしました。「パワーポイントを使って、おとしだま袋を作成してみよう！」と題して、パワーポイントの基本操作から自分でデザインを考えて作る内容まで実施しました。

幼稚園児から70歳以上まで幅広い年齢層の約20名の方々が参加され、学生インストラクターがマンツーマンで操作の説明やアドバイスをしながら、たくさん作品を完成させることができました。



おすすめ図書vol.23

青森中央文化専門学校 曾我 武 先生

『大量廃棄社会 アパレルとコンビニの不都合な真実』
仲村和代 著 藤田さつき 著 (光文社新書)

SDGs…「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」。一年間に10億枚の新品の服が、一度も客の手に渡る事もないまま捨てられている廃棄問題をはじめ、アパレル業界の抱える深刻な現状について、様々な角度から詳しく描かれている。より安い商品をより大量に生産するシステムが生んでしまった服の大量廃棄や製造現場における過酷な労働、環境破壊など、解決しなければならない事は多い。ただ、この状況は、もの作りへのコストを無視し、より低価格を求めてしまった消費者も大きく関係する。

業界を未来へと繋ぐ鍵となるのは、日本人デザイナーをはじめとする国内生産にこだわるハイファッションブランド、品質や作りに納得して購入する消費者、業界の透明性、テクノロジーの徹底活用だ。また、本校学生も実習させていただいている青森市の縫製工場「株式会社アプティマルワ」も、将来の可能性を感じられる企業として紹介。アパレル業界の他に、食品業界の問題もクローズアップされた本書は、誰もが考えなければならない現実問題を提起している。

ファッション通信 vol.23

～ファッションコーディネート～

今回は、ワンピースを主役にしたコーディネートをご紹介します。

茶色に赤や黄色の花柄はクラシカルで上品なイメージに着こなすことができます。ワンピースはコーディネートがマンネリ化しやすいアイテムですが、季節や小物使いを意識すると、オールシーズン楽しめるアイテムでもあります。私は、同色系のチェスターコートと黒のブーツで秋冬らしい上品なコーディネートにしました。襟元のリボンが、さりげなくおしゃれ感を演出しています。秋冬は落ち着いたカラーが多く、重たい印象になり



がちですが白×赤のミニバッグを合わせることで全体のカラーバランスを整えられるよう工夫しました。

春は羽織をジャケットやカーディガンにしたり、夏はインナーを工夫したりするとたくさん着まわすことができます。今年もいろいろなファッションを楽しみましょう！

卒業生ピックアップ No.34

青森中央経理専門学校 医療事務コース 2018年度卒業
中央薬品株式会社 勤務
溝江 真優さん

私は2018年度に青森中央経理専門学校の医療事務コースを卒業し、現在、中央薬品株式会社にて調剤薬局事務員として働いています。

会社を選んだきっかけは、2年生の夏休みに調剤薬局での職場実習があり、その時にお世話になった会社が現在の会社です。職場実習では仕事の内容、患者様の対応など勉強させていただき、また、自分の目指す道をはっきりと確信したことを今でも覚えています。仕事で困ったことや壁にぶつかった時に、専門学校で得た知識と技術が武器になっています。



これからも医療に携わる者としての自覚を持ち、社会に貢献できるよう、頑張ります。

学園共通

高大連携事業

大湊高校との高大連携協定締結

青森中央学院大学と青森中央短期大学は、2020年10月21日、青森県立大湊高等学校（むつ市）との高大連携協定締結式を行いました。本学はむつ市との包括連携協定を締結しており、これまでもむつ・下北地区での地域との連携事業として「むつサテライトキャンパス」事業等を実施しています。この度、高校生の進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、高等教育・大学教育を活性化させることを目的として、大湊高校と連携協定を締結しました。今後は大学・短大と高校の双方により企画・立案する連携授業や、協働での課題研究、情報交換や教職員の合同研修、人事交流等を行い、本学の特色を活かした幅広い学問分野での連携事業を実施してまいります。

青森南高校との「絵本の食べ物作ってみよう」

青森南高校で読み聞かせ隊を行っている生徒さんと青森中央短期大学幼児保育学科の学生が、「絵本の食べ物作ってみよう」というテーマで全4回

の交流を行いました。交流では、附属幼稚園の園児を対象に読み聞かせを行い、絵本に出てきたパンケーキを実際に作ってみることを目標としました。

高校生と大学生が絵本の読み聞かせについてそれぞれ学んできたことを出し合い、絵本の選定から読み聞かせの方法まで検討を行いました。さらに、食物栄養学科の森山先生に調理についてオンラインでご指導頂き、同学科の千葉先生、学生にもご協力頂いて、調理からお食事会までを企画・実施しました。絵本と同じ大きなパンケーキが出来上がり、園児たちも大喜びでした。高校生にも本学学生にも貴重な学びの機会となりました。

（幼児保育学科准教授 鈴木 寛康）



図書館から

「ビブリオバトルin AC 2020」開催

2020年12月14日、学内「+C（プラスシー）」を会場に「ビブリオバトルin AC 2020」が行われました。ビブリオバトルとは、自分の好きな本を観客に紹介し、観客の投票でチャンプ本を選ぶ、“知的書評合戦”と呼ばれる書評会です。今年は6人の学生が参加し、浅利元香さんの紹介した『青春ブタ野郎はバニーガール先輩の夢を見ない』がチャンプ本に選ばれました。



看護学部1年 浅利 元香



私はビブリオバトルに参加してよかったと感じました。それは、参加しなかったら出会えなかっただろう本が多々あったからです。普段読まないジャンルで、今後必要になるものや、いろいろ考えさせられるものなど、「読んでみたい」と思う本ばかりでした。また、作品を知らない方が多い中で、自分の好きな作品

を紹介できたことも貴重な経験でした。他の参加者の紹介を聴いて、「こんな方法があるのか」とプレゼンについて学べる点もあり、とても楽しかったです。

選書ツアーを行いました

学生自身が書店で本を選定し、紹介POPとともに展示するイベントです。新たな書籍との出会いだけでなく、学生目線で購入した書籍を所蔵・紹介することで、読書推進を狙いとしています。5回目の今回は、8グループ11名が参加し、約60冊の書籍が集まりました。

選定後は、多くの方に利用してもらえるよう、自らが選定した書籍に紹介POPを作成しました。学生選書による書籍は、現在特設コーナーに展示されています。

“学生目線”による書籍の数々を是非ご覧ください。



「センス・オブ・ワンダー」開設

この度、キャンパス内にあるビオトープ（地域の野生の生物が暮らす場所）での活動の成果を公表し、より多くの方に地域の自然の魅力を感じていただくことを目的として、短大ホームページに「ビオトープオープンエデュケーションサイト『センス・オブ・ワンダー』」を開設しました。

本学のビオトープの紹介、セミの羽化タイムラプス動画、ビオトープ幼児教材、Web公開講座のオンデマンド配信、資格試験の紹介等のコンテンツを用意しておりますので、ぜひご覧ください。



こちらからご確認
いただけます



オープンリソースの利用について

本学では、これまでの教育の成果として作成された独自の教材及び指導法を、他大学での講義や、自主学習ツールとして活用していただくために、本学ホームページにて広く一般に無償で公開いたします。

●利用規約について

利用許諾条件をお守りいただければ、本学ならびに教材作成者の許諾を得る必要はありません。また、本利用規約を予告なしに変更することがありますので、最新の内容をご確認ください。以下のQRコードからご確認いただけます。



青森中央学院大学
オープンリソース



青森中央短期大学
オープンリソース

エコバック活用の取組みについて

青森田中学園ではSDGs（持続可能な開発目標）の推進・プラスチックゴミの排出削減を目指し、学園祭でのリユース食器の使用等に取り組んできました。今年度は学生のエコバック利用を推進するために、青森中央学院大学の学生が中心となり、エコバックの利用状況、エコバックに求める機能・デザインについてのアンケート調査を実施しました。この調査結果を踏まえて、コンパクトでマチがあり、シンプルなデザインのエコバックを作成し、現在学生への配布を進めております。今後はこのエコバックの活用やエシカル消費推進等の取組を進めてまいります。

**AOMORI TANAKA GAKUIN x SDGs
PLA ZERO PROJECT IN 2020**

1. これまでの取り組み
青森田中学園ではプラスチックゴミの排出削減を目指し、2019年の学園祭でリユース食器の使用に取り組みました。今年度は学生のエコバック利用を推進するために、学生が利用しやすくなるエコバックの制作に取り組んでいます。

2. アンケート調査の概要
学生が利用しやすくなるエコバックを制作するために、青森中央学院大学・青森中央短期大学・青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校にアンケートを実施しました。アンケートはWebで行い、青森中央学院大学373人、青森中央短期大学185人、青森中央経理専門学校36人、青森中央文化専門学校22人の回答が得られました。なお男女比は、男性が39.9%、女性が58.6%、回答なしが1.5%となっています。

3. アンケート調査の結果

4. エコバックのデザイン
分析結果から、コンパクトでマチがあり、シンプルなデザインのエコバックを作成しました。今後は学生にエコバックを配布し、エシカル消費の推進とあわせて、取り組みを実施していきます！

この調査結果を踏まえて、コンパクトでマチがあり、シンプルなデザインのエコバックを作成し、現在学生への配布を進めております。今後はこのエコバックの活用やエシカル消費推進等の取組を進めてまいります。



新型コロナウイルス感染症への本学の対応

本学園では感染症拡大の状況を踏まえ、適宜、必要な対策を講じていきます。学園ホームページで随時お知らせしますので、定期的な確認をお願いいたします。



下記QRコードからご確認いただけます。

●マスク着用と学内換気の徹底

●手洗い・消毒の徹底

●「密閉、密集、近距離の会話」の三つの条件を極力避けることを基本方針とした授業環境の整備に取り組んでいます

●感染拡大防止に向け、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の利用をお願いします



←最新情報は「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に対する本学の対応状況について」をご確認ください



「こぶしの花」掲載写真募集！

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」の表紙写真を募集しています。緑豊かな学園内での、四季折々の風景を題材とした在学生の皆さんの作品をお待ちしています。

■応募期間：通年

■応募方法：応募先メールアドレスに、①件名「こぶしの花写真応募」 ②本文「学部学科・学生記番号・氏名・電話番号」を記入し、写真データを添付して応募ください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※お問い合わせもこちらのアドレスまでお願いします。



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第104号

発行日：2021. 2. 20

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

杉田由佳理 丸山 夏弥

外崎 秀香 木村 貴子

渡辺 琴美 坪谷 輝子

中田 尋美 岩葉 悦子

高橋 晴美 町田美智子